





# こんなところで地震が起きた! 安全に避難するときの注意は?

日本はこの先30年の間に、西日本を中心に南海トラフ地震や南関東を中心に関東直下型地震が発生すると言われています。日常の生活を送っているそのなかで地震が起きます。私たちは地震発生時、どこで何をしているのでしょうか。どこで地震に遭遇しても安全に避難できるように今から知識を蓄え、その時に備えることが大切です。

## 家の中で地震が起きた!



- ◆丈夫な机、テーブルなどの下に身を伏せ、落とし物や家具の転倒から身を守りながら、揺れが収まるのを待つ。
- ◆揺れが収まったら、ガラス破片などでケガをしないようスリッパや靴を履き、落ち着いて火の始末をする。
- ◆アイロン、ドライヤーなどの熱電機器は、すぐにプラグをコンセントから抜く。
- ◆背の高いタンス、戸棚、本棚など倒れやすいものには近寄らない。
- ◆窓ガラスからは離れる。
- ◆慌てて階段を駆け下りない・絶対に窓や屋根から飛び降りない。
- ◆ブレーカーは「切」にしてから避難する。

## 屋外で地震が起きた!



- ◆門、ブロック塀、石垣、自動販売機などの近く、また狭い路地からは一刻も早く離れる。
- ◆ビル街を歩いているときは、窓ガラスの破片や看板などが落ちてくる場合があるので、かばんやバッグなどの持ち物で頭を守ること。
- ◆公園、空き地などにいったん避難する。
- ◆切れた電線には絶対触らない。

## 地下街で地震が起きた!



- ◆停電で暗闇になってしまっても、すぐに非常照明がつくのであわてない。
- ◆天井からの落下物や窓ガラスの破片に注意する。
- ◆ゆれがおさまったら、一番近くの出口を探す。
- ◆あわてて階段や出入口に殺到せず、落ち着いて行動する。



## 避難するとき気をつけること

- ①自動車やオートバイなどは使用せず、徒歩で避難する。(車等での避難は渋滞を引き起こし、消火・救助活動の妨げになる。)
- ②ヘルメット、防災頭巾などで頭を守る。
- ③持ち物は最小限にして、リュックサックなどに入れて背負う。
- ④ガス栓を閉める。
- ⑤服装は身軽に。女性は動きやすいズボンの方が安全。
- ⑥靴は平底の丈夫な物。素足は禁物。
- ⑦アイロン、ドライヤーなどの電熱機器はスイッチを切り、プラグやコンセントから抜いて、電気のブレーカーは必ず「切」にしてから。
- ⑧できるだけ家族や近所の人たちと一緒に避難し、単独では行動しない。
- ⑨狭い路地、狭い場所、坂道などは通らない、近づかない。
- ⑩切れた電線は、感電の危険があるので近寄らない。
- ⑪警察、消防、区市町村の指示・誘導がある場合は、その指示に従い、秩序正しく避難する。
- ⑫乳幼児やお年寄り、障害のある方の避難は、みんなで避難のお手伝いをする。
- ⑬避難途中や避難した後で、荷物などを取りに戻るのは危険。

## ビル・マンションで地震が起きた!



### マンション

- ◆ドアを開けて避難口を確保する。(建物がゆがんで、ドアが開かないことがある。)
- ◆天井からの落下物に注意する。窓ガラスには近寄らない。
- ◆エレベーターは利用しない。もし乗っていたら、回数ボタンを全部押し、一番近い階で停止したらしばらく降りる。

※人が多いところでは、パニック状態になりやすいため、大声を出したりむやみにげまどたりしない。



### 映画館や劇場

- ◆バックなどで頭を守り、椅子の間に身をひそめる。
- ◆階段や出入口に殺到せず、落ち着いた行動をとる。避難誘導にあたる責任者がいる場合は、その指示に従い、速やかに行動する。



### オフィス

- ◆キャビネット、本棚、大型機器、ロッカーなどに注意しながら、事務机の下に身を伏せる。

## 自動車を運転中に地震が起きた!



- ◆ハンドルをとられないよう急ブレーキをかけず、徐々にスピードをゆるめ、道路の左側に止め、エンジンを切る。(スピinn、横転の危険性。道路の中央は、緊急車両や避難者用に空けておく。)
- ◆自動車を停止させる場所は、交差点や消火栓のある所は避ける。
- ◆大きなり面の下、トンネル抗口の近くはできるだけ避ける。(り面、トンネルが崩落する危険性がある。)

- ◆揺れがおさまったら、自動車から降りて、周囲の危険性を確認する。
- ◆その場に危険がなければ、カーラジオで情報を聞く。
- ◆避難するときは、火災を引き込まないように窓ガラスをしっかりと閉め、ドアはロックせず、キーはつけたままにして、自動車を置いて避難。
- ◆道路に亀裂や火災の危険性があることから、徒歩で避難する。
- ◆高速道路の遮音壁には非常口がある。また、1キロメートルごと(トンネル部は200mごと)に非常電話がある。

## 地下鉄、電車やバスで地震が起きた!



- ◆ぐらっと来たら、つり革などにしっかりとつかまるか、姿勢を低くする。
- ◆落ち着いて、乗務員の指示に従う。
- ◆地下路線内では、路線横に高圧電流が流れている部分があり、感電の恐れがあるので勝手に列車から降りない。
- ◆停電になってしまっても、自動的に非常照明がつくので慌てない。
- ◆みだりに非常コックを操作したり、線路に降りるなどの勝手な行動をとらず、乗務員の指示に従う。
- ◆ホームや駅舎では、時刻表、蛍光灯などの落下物に注意し、バッグなどの持ち物で頭を守りながら、安全な場所に避難する。
- ◆電車やバスから降りたら「屋外にいるとき」の事項を守る。

## 津波が発生したらどうする?

- 津波はとても速いので、津波を見てから逃げていては間に合いません。強い揺れを感じたり、津波警報を聞いたらとにかく早く逃げましょう。
- ◆津波は河川をつたって上流までやってきます。海や川から離れ、「よりたかいところ」にげまどましょう。
  - ◆原則として、車での避難はやめましょう。車で避難する人が多いと、道路が渋滞してしまい、そのため津波に飲み込まれてしまう可能性があります。
  - ◆津波は繰り返し襲ってきます。また、最初の波よりも次の波の方が大きい場合もあります。津波警報が出ている間は避難を続けましょう。

